

# 「後の世代に伝えたい」 越来小児童、沖縄戦学ぶ



玉城江梨子記者の話を聞きながら、自分の大切なものなどについて話し合った子どもたち  
＝1日、沖縄市立越来小学校

読んで  
読ん  
NIE

琉球新報の記者による出前講座  
「おでかけりゅうPON!」

おでかけ  
りゅうPON!

PON!」が1日、沖縄市立越来小学校（蔵根美智子校長）で開かれ、6年生48人が沖縄戦について学んだ。社会部の玉城江梨子記者が「たくさんの大事な

ものを全部奪われてしまうのが戦争だ」と語り掛ける。と、児童らは真剣な表情で命や平和への思いを深めていた。講座は児童らが平和祈念

資料館などを訪れる事前学習として開かれた。玉城記者は、66年前に多くの一般住民が犠牲になったことなど沖縄戦の概要を説明。9月から連載中の「未来に伝える沖縄戦」の取材経験を踏まえ、「戦争で生き残った人も家族を失った苦しさや学校に行けない苦労があり、今でも戦争を引きずっている。人生を変えてしまうのが戦争だ」と語った。

比嘉百華さんは「これからも戦争について考えていきたい」と発表。大城駿希君は「戦争の話は怖いけど、伝えなければ後の世代の人が分からなくなるから、自分たちも伝えていきたい」と力を込めた。